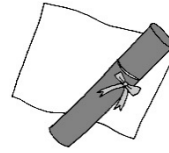




学校教育目標

# 西陵だより

「開拓」創造・協力・根気・健康



学校だより

No. 13のI

令和2年3月13日

札幌市立西陵中学校

## 令和元年度 第46回卒業証書授与式 学校長式辞

校長 佐藤 克己

はじめは深刻な雪不足と言われていた今年の冬も、2月にはいつもと変わらない雪景色となり、そして3月に入り、またいつもと変わらない春の訪れを確実に感じる季節になりました

本日、西陵中学校第46回卒業生として巣立っていく132名に、卒業証書を渡しました。「卒業」という人生の節目を迎え、未来に向かって大きく羽ばたこうとしている卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

また保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、まことにおめでとうございます。義務教育9年間の大任を果たされ、今日の喜びの日を迎えられたことに、心よりお祝いと敬意を申し上げます。また、入学式以来、本校の教育活動に対しまして、様々なご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

今年度はこのような形式の卒業式となり、私たち教職員にとりましても、生徒はもちろん、保護者の皆様に対しましても、残念な思いや申し訳ないという思いがあります。しかし、まずはこうして、卒業生が登校し、卒業式を挙行することができたことを喜び、卒業生の門出を祝いたいと思っております。

さて、私が着任した今年度だけを振り返っても、3年生の皆さんは、つねに最高学年にふさわしい、心のこもった、そして完成度の高い活躍を見せてくれました。修学旅行においては、明るく元気に、そして立派な態度で3日間を過ごし、行く先々でお褒めの言葉をいただきました。また、文化祭での発表には目を見はるものがあり、ステージや教室で、生き生きと最上級生らしい取組の成果を見せてくれました。そして、学級が心一つにして取り組んだ、合唱コンクールでの力強く美しい歌声は、順位など関係なく、どの学級もたいへん素晴らしく感動的でした。

この1年で私が特に印象に残っているのは、修学旅行の時期に、みなさんが「やってみよう」という歌を歌っていた姿です。歌自体も明るく元気が出る歌でしたが、みなさんの歌声が毎朝学校に響くたびに、私も「今日も一日がんばろう」という気持ちになりました。そして、本番の修学旅行でこの歌を歌っているみなさんの姿を見て、この歌にふさわしい、明るく前向きな本当にいい学年だなあ、と感心したことを今でもはっきりと覚えています。

そんな明るく前向きな3年生の卒業にあたり、私が理想としている一つの生き方について話をさせてください。それは「しなやかに生きる」ということです。「しなやか」という言葉は、動作がなめらかで堅苦しいところのないようすや、柔軟で美しい動きを表しています。

しなやかな生き方というのを具体的に表現するならば、①自分の生き方をしっかりと持ちながらも、時代の変化に合わせて自分を変えていくことができる、②多様な生き方や考え方を認め、多くの人と友好的関係を築くことができる、③夢や理想を実現する工夫として、人の助けを素直に借りたり、時には一休みや回り道を選択したりすることができる。そういう生き方だと私は思っています。

皆さんを取り巻く環境は、これからもさらにめまぐるしく変化していくことは間違いありません。そしてこれから社会人となる皆さんに求められるものも、これだけができればよい、ということは少ないでしょうし、一生懸命にがんばっているだけでは、思うような結果が出せない場合も数多くあると思います。それでも、皆さんには中学校生活で手に入れたさまざまな財産を土台として、これからの人生を、夢や理想をもって生きてほしいと思いますし、その夢や理想を、実現させてほしいとも思っています。そのためにも、ぜひこの「しなやかに生きる」という言葉を、頭の片隅に残しておいてください。そして夢の実現に向けて、これまでと同じように前向きに、笑顔を忘れず、辛く厳しい時にも



しなやかに、これからの時代を生き抜いてほしいと思います。

最後になります。保護者の皆様には、子どもたちが社会人として自立するまでの間、もうしばらく、彼らのよき理解者、支援者でいていただきたいと思います。また、これからも地域に住むよき応援団として、西陵中学校を見守ってくださいますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さんにとって、これからの人生がもっともっと楽しく、素晴らしいものになることを祈って、式辞といたします。

## お祝いのことば

P T A会長 石山 正展

令和元年度第 46 回西陵中学校卒業証書授与式にあたり、西陵中学校 P T A 会長として、保護者を代表しご挨拶申し上げます。第 46 期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが期待に胸を膨らませて西陵中学校の門をくぐられてから、晴れて卒業という門出を無事に迎えられることをたいへん喜ばしく、そして頼もしく思います。卒業生の皆さんにとって西陵中学校での 3 年間はどのようなものでしたか。きっと、皆さんそれぞれが、勉強や部活動などに一生懸命取り組まれ、中学生としての本分を十分に尽くされてきたものと考えます。

西陵中学校での 3 年間を振り返ると、先生やクラスメート、部活動の仲間など、多くの人たちと巡り合い、同じ時を過ごしてこられ、楽しかったこと、嬉しかったことが沢山あったかと思えます。時には、つらく悲しいことも、少なからずあったものと推察いたします。深く悩むこともあったかと思えますが、皆さんは勇気をもってそれらを乗り越えられ、今また新たな一步を踏み出されようとしています。皆さんは、西陵中学校で大切な絆を得たほか、多くの学びや貴重な経験も得ることができました。そして、人として、心もからだも大きく成長することができたものと考えます。皆さんには、西陵中学校で得たものを、これからの将来においても大切にしていきたいと思えます。周囲の人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、善き人として、さらなる成長を遂げた姿を見せてくれるものと期待しています。

卒業生の保護者の皆さまにおかれましては、この度、無事にご卒業を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。今後も、卒業生はもとより、西陵中学校の子供たちを支えて、応援して頂きますよう、お願い申し上げます。教職員の皆さまにおかれましては、様々な場面で子供たちに寄り添ったご指導を賜り、誠にありがとうございます。巣立つ卒業生を今後もあたたかく見守って頂きますよう、お願い申し上げます。また、今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びその防止を踏まえ、従来のような卒業式とならなかったことは、非常に残念ではありますが、様々な制約があるなかで、卒業生のために式を準備し、挙行して下さった教職員の皆さまをはじめ、学校職員の皆さまや在校生の皆さまなど、関係各位のご配慮とご尽力に敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

結びに、P T A 会長として本校の先生のお話を伺う機会が度々ございますが、先生方は一様に、「西陵中の子供たちは、あいさつがきちんとできて、純朴で他人を認めることができる子が多い」とおっしゃられます。このことは、卒業生皆さんの強みであり、ひとりの人間として大切なことだと思います。卒業生の皆さんが自信と誇りを持って歩み、成長され、そしてさらなる飛躍とご活躍されますことをご期待申し上げますとともに、西陵中学校に携わる全ての方々の益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げて、ご卒業を祝してのご挨拶とさせていただきます。

## 送 辞

在校生代表 小林 響太郎

厳しい冬の寒さの中にも、春の訪れを感じることでできる季節となりました。3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方との思い出を振り返ってみると、いつも私たちの背中をそっと優しく押して下さっていたことに改めて気づきます。合唱が伝統である我が校には、新1年生が入学してから新入生歓迎会までの数日間、有志のメンバーで、「校歌伝承プロジェクト」を結成し、朝の10分間、2・3年生が校歌を教えるというものがあります。私たちがこの西陵中学校に入学し、教室に見上げるような背丈の先輩が入ってきたときは本当に驚きました。私も私の級友も緊張し、なかなか声が出ませんでした。そんな私に、「校歌、難しいよね。けど。もっと頑張って声だそう。」と、優しく声をかけてくださった一人の先輩がいました。そして、その後の練習から私の後ろに立って校歌を歌ってくださいました。先輩の優しさがあったからこそ、新しい環境にも慣れることができたように思います。

私が先輩方と特に深く関わるようになったのは、野球部に入部したことがきっかけでした。4人の先輩は優しくて明るくてとても面白かったです。練習が終わると、みんなを笑わせてくれる先輩や、試合中にも関わらず、投球が終わってからマウンド上で何度もフォームを確認し、先生に注意される先輩、中体連激励会で明石先生に出されたサインを間違ってしまう先輩、いつも優しく相談に乗ってくれるのに、身長のことを言うと激怒する先輩もいました。そんな先輩方も、ここぞという大事な場面ではヒットを打ったりファインプレーをしたりしてチームを助けてくれて、とても頼もしかったです。私はそんな先輩方が大好きでした。中体連で負けてしまったときは全員で泣きました。先輩方が引退してしまった後の野球部は、どこか寂しくて、試合中に自分達で流れをつかめないことが多くあり、そのような時に改めて先輩方の存在の大きさに気がつきます。そして、このことは野球部だけに限らないと思います。

私たち在校生にとって、3年生の皆さんは「目標とする存在」です。そして、この存在はものすごく大きなものです。これまで様々な場面で「3年生のようになりたい」と思っていました。その中でも強く思ったのが、文化祭です。3年生の発表はどれも迫力があり、教室発表は1・2年生とは比べ物にならないくらいクオリティが高かったです。ステージ発表はとてもパワフルで、演技も素晴らしかったです。そして、何より3年生が1・2年生を引っ張って文化祭を全力で盛り上げていたことや、みんなが楽しめるように活動したり演技したりしていた姿はとても輝いていました。先輩方は私たちの憧れでした。

そんな先輩方が最高学年として、まさに実りの時期を迎えようとしたとき、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、学校が臨時休校となってしまいました。そして、その翌日に休校期間を延長するとのメールが届きました。友人からは「卒業式、出たかった」という連絡が何件も来ました。私も同じです。卒業式当日、在校生全員でお祝いできず残念ですが、私たちは3年生のことを絶対忘れないでしょう。

これからは、私たち2年生が新3年生としてこの西陵中学校を盛り上げ、目標とされる存在とならなければなりません。先輩が私たちに見せてくださったその輝かしく、たくましい姿を忘れず、西陵中学校の伝統であるあいさつ、合唱、そしてみんな仲が良くいじめがないというところを受け継いでいきます。

新たなる旅立ちの日を迎えられた卒業生の皆様のご活躍とご健康をお祈りし、お祝いと感謝を込めて、送る言葉とさせていただきます。

## お別れの言葉

卒業生代表 江川 侑輝

見えない病原体に怯える私達にも春は素知らぬ様子で、今年も希望の光とともに訪れました。こうして無事に卒業式を迎えられたことに感謝の気持ちで胸が一杯です。慣れない制服を身にまとい、校舎に足を踏み入れたのは三年前。今日まで数々の苦労と喜びをこの学年の仲間と共に刻んできました。

皆さんは三年間の思い出を振り返って考えた時に、何が一番最初に頭に浮かびますか。修学旅行。文化祭。合唱コンクール。そしてそれらの思い出の中にいつもあったのが歌。

歌は私達の心を一つにし、楽しい時間を作りだしてくれました。三年生の合唱コンクールを思い出して下さい。歌の好き嫌いに関係なく、一つの作品に全力で取り組むことで心が通い、達成感と喜びを得たことを。そして、その全力でのぞむ熱い姿は在校生の心にも響き、未来に受け継がれていくことと思います。

今日、私達132人は西陵中学校での思い出を胸に次のステージへ一歩前進し、明日からはそれぞれの道を歩むこととなります。そして、この学年の仲間と共に切磋琢磨し、歩んだ証は伝統としていつまでもここで生き続けます。どんなに背丈が伸びようと、西陵中学校で青春を過ごしたという過去は絶対に動きません。もしもこの先、困難で険しい道にさしかかった時には、これまでの輝かしい日々を思い出して下さい。皆で心を通わせたあの「歌」を思い出して下さい。卒業しても私達は心のどこかできつとつながっています。だから、どんな時も顔を上げて前を向き、胸を張って歩いていきましょう。

担任の先生をはじめとする教職員の皆様、今日まで私達を支えて下さりありがとうございました。楽しく熱い指導と厳しくも優しいご指導のおかげで、私達は強く成長することができました。残念ながら今日臨席できなかった保護者の皆さんにも、今まで温かく見守り、大切に育てていただいたことに深い感謝の気持ちを伝えたいと思います。

さて、いよいよ旅立ちの時となりました。仲間と共に刻んだかけがえのない大切な思い出と、ゆらぐことのない勇気を胸に、明日に向かって強く歩み続けることを誓い、別れの言葉と致します。